

保育内容表現の授業実践と考察1

「表現活動」集大成のための試み

Class practice of the childcare contents expression and the consideration No.1
Trial for the "expression activity" collected studies

飯泉祐美子 (帝京科学大学)

Yumiko IIZUMI (Teikyo University of Science)

(キーワード)

5点以内(10)保育内容表現、表現のコラボレーション、音楽的表現、身体的表現

はじめに

(1)本研究における保育内容表現とは

指定保育士養成校であるT大学の2年次後期開講科目であり、児童福祉法施工規則第6条の第2第1項第3号で、系列、保育内容・方法の理解に関する科目として、教科目 保育内容演習(演習)として位置づけられているものである。本科目の履修の前提の関連科目としては音楽Ⅰ(1年次通年)(幼稚園教諭一種免許状関連科目)音楽Ⅱ(2年次通年)(保育士資格関連科目)を履修済みである。T大学ではその後3年次4年次に表現関連科目が設定されていないため、2年次でありながら4年制大学の学びの上で「表現」の集大成となるものである。そのため「表現」の学びの広さと深さを追求しなければならない位置づけのものである。

(2)T大学における課題と解決方法

集大成と位置づけるには科目の特性上、自らの手で作り上げた「表現」による「達成感」「成就感」「充実感」「満足感」を体得することにある。そしてこの学びが保育者としてのスキルを上げることにもつながる。しかし、1年次からの「表現」関連の科目のコマ数に対して、集大成としての学びの「広さ」「深さ」を保障するための時間数がT大学では不足している。

そこで同じ悩みを持つ専門科目「保育内容環境」

とのコラボレーションを考え、両科目の特性を学びながら、それぞれの科目より7コマずつ充てることにより14コマを確保し、その時間を用いて「表現創作活動」をするという企画を試みた。両科目の取り扱う内容は明確に区分し、「保育内容環境」では表現の環境づくり(大道具、小道具)、題材選びおよびシナリオづくり、ト書きづくり等を行い、「保育内容表現」では音楽的表現創作、身体的表現創作、情景や雰囲気のための効果音や背景音楽を創作、通し稽古を行った。

(3)企画手順の概要

ここからは「保育内容表現」としての手順を述べる。

グループの活動はゼミ単位で行った。グループ内の全員が表現者であり、また3つの創作「音楽的表現」「身体的表現」「効果音と背景音」のいずれかの創作企画も担当することとした。日程は以下のように平成28年11月8日より12月20日発表まで7回の授業を充てた。

〈全体スケジュール〉

11月8日	担当わけ	創作企画①・・・企画立案
11月15日	}	創作企画②③・・・具体創作
11月22日		

11月29日 創作企画④・・・完成
 12月6日 挿入練習
 12月13日 ゲネプロ
 12月20日 発表

〈音楽的表現の創作の記録〉

音楽的表現担当（4名）

11月8日 音楽的表現担当者内でさらに割り振り。メロディー創作担当と歌詞担当それぞれ2名ずつに分かれ創作を開始。キーボードを使用してメロディーを創作。
 11月15日 テーマ曲がほぼ完成。グループ内での公表のために録音する。
 11月22日 グループのメンバーに公表し手直し、身体的表現との詰め
 11月29日 挿入練習
 12月6日 通し練習
 12月13日 ゲネプロ
 口頭発表では実際に作成した楽譜を紹介した。

〈効果音や背景音楽創作の記録〉

効果音や背景音担当（3名）

11月8日 効果音があるほうが子どもも楽しめてイメージも膨らむのではないかと
 →効果音アプリを使用することを決定。
 11月15日 物語全体の読み込み、どのように表現するかを話し合う。
 11月22日 効果音アプリより使用するものを決定。音台本の決定。
 11月29日 挿入練習
 12月6日 通し練習
 12月13日 ゲネプロ
 口頭発表では実際に作成した音台本を紹介した。

〈身体的表現の創作記録〉

身体的表現担当（3名）

11月8日 } 子どもでも振りが覚えられるような簡
 11月15日 } 単な振りを考える。簡単であってもシ

ーンを表現できるような振りにする。
 演出についても考える。

11月22日 振りの決定。ステージを想定して立ち位置の決定。
 11月29日 詳細な演出の決定。転換図の作成。
 12月6日 通し練習
 12月13日 ゲネプロ
 口頭発表では実際に作成した舞台転換図を紹介した。

〈創作劇どろんこハリー〉

口頭発表では5分程度の作品の映像を紹介した。

(4)企画を終えて

この活動は今後の改善点はあるものの学生のよき体験となったと思われる。

この活動による学びは要約すると以下の通りであった。

- ・全体で合わせることの大切さを感じた。
- ・演じる側、観る側、両方が楽しむことが大切だと思った。
- ・複数の人が同じ感情または姿勢で取り組むとそれが全体に反映されることに気づきました。
- ・みんなの前で恥ずかしがらずに熱心に取り組むことで見る人にも面白さが伝わってくるのだとわかりました。
- ・グループ活動ではみんなで協力する必要があることを学んだ。
- ・発表では人の前で自分なりに表現し、みんなで一緒にひとつの表現をやり遂げることの楽しさを感じられることが大切であると思う。

(5)まとめ

少ないコマ数で表現活動の集大成を試みた。「表現する側と表現を受け取る側両社が喜びを共有する。そしてそこに感動が生まれる。」大半の学生はこの体験ができたと思われる。

将来保育者として子どもたちの表現活動に関わる際に出来栄ばかりを追求する保育者にならずこの活動で体験した感動、達成感、成就感、充実感、満足感を是非思い出して欲しいと願うばかりである。